

## 福井県知事の老朽原発再稼働 同意議論の開始に抗議！

### 2月15日 県知事に要望書、県議会に陳情書を提出

2月12日（金）夕方、関電の森本社長と資源エネルギー庁長官が福井県知事と面談し「2023年末までに、むつ中間貯蔵施設を共同利用して、関電の使用済燃料を搬出する」との案を伝えた（経産大臣はwebで参加）。

福井県の杉本知事は、使用済燃料の県外搬出先と時期を示すことが、老朽原発（美浜3、高浜1・2）の再稼働議論の前提条件だと繰り返し述べてきた。あろうことかこの関電案を評価し「再稼働の同意議論のハードルはクリアされた」と述べ、16日から始まる福井県議会に、議論開始を要請した。

しかしむつ市は、13日と17日に即座に見解を出し、関電と国の「案」を否定した。これによって、関電の「共用案」はまったく現実味のないことがはっきりした。知事が自ら指定していた、再稼働議論の前提は成り立っていない。

▼知事発言に抗議するため、急ぎよ週明けの15日（月）に抗議行動が行われた。福井の市民団体と共に、県への申入れ等を行った。

正午から県庁前で横断幕を上げ、知事の議論開始発言に抗議し、老朽原発再稼働に反対するアピール行動が行われた。雨の中で、かわるがわるマイクを手に、怒りの発言が続いた。

今後も、福井、関西、東海、むつ市等、全国の力を合わせていこう。



#### 狭い廊下で、知事宛ての要望書提出



▼午後1時から、福井県知事への要望書提出。福井県の対応はひどいもので、会議室を用意することもなく、原子力安全対策課の部屋の前の狭い廊下でのやりとりとなった。市民25名程が集まり、「オール福井反原発連絡会」「サヨナラ原発福井ネットワーク」「避難計画を案ずる関西連絡会」の3団体が要望書を読み上げ、知事の同意の議論開始と老朽炉再稼働は許さないと厳しく抗議した。県は無言で要望書を受け取るだけだった。

#### 県議会宛ての陳情書提出



▼午後1時半過ぎから議会棟の会議室に移動し、県議会事務局に陳情書を提出した。「福井から原発を止める裁判の会」、若狭町の「安全なふる里を大切に作る会」等、福井県内はもとより、名古屋の「老朽原発40年廃炉訴訟市民の会」等、7つの陳情書が提出された。内容は様々で、老朽原発の危険性を技術的に指摘したり、福井県民の気持ちの込められたもの等々。私たちは、知事の前提条件は崩れているため「2月議会で再稼働同意の議論を行わないこと」を求める陳情書を提出。私たちの要望書と陳述書 [避難計画の部屋 \(apc.org\)](#)

避難計画を案ずる関西連絡会